



〈専務取締役〉
松田 拓也
まつだ たくや
[座右の銘]
雲外蒼天

Q1

情報のデジタル化による メリットは？

A デジタル情報を活用することで、これまで経験に頼るところが大きかった機械の性能・機能を最大限に引き出せますし、その時点での最高の生産体制を構築することができます。

Q2

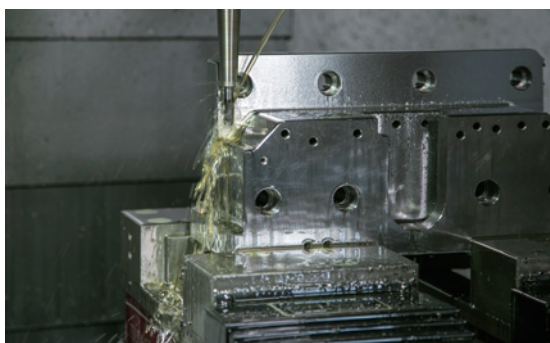
高精度マシニングセンタを 入れて変わったことは？

A 長時間連続して運転する際の加工精度が格段に上がりました。それと共に加工時間を約10%短縮でき、短納期でこれまでより良い製品を納品できるようになりました。

Q3

今後の展望は？

A この先ものづくりの世界ではロボット化、IoT化が進んでいくでしょう。一方、職人の手でしかできない作業もあるはず。この二つをうまく融合させて、よりクリエイティブなもののづくりを行っていききたいですね。



同

社では、併せてマシニングセンタと呼ばれる

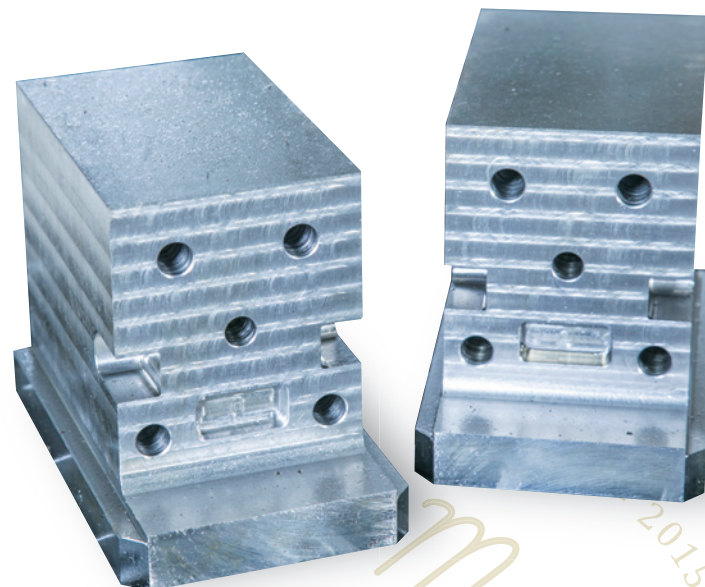
新たな数値制御の工作機械を導入。加工精度が格段に向上し、高品質の製品を短期間で納品することができるようになりました。

「生産工程のIoT化と新規導入設備によって、長年課題だった作業の効率化、高度化、平準化を一気に達成できました。今後は高度な生産管理体制で、航空機や次世代エネルギーなど新分野に挑戦したいですね」

株式会社 池上鉄工所

IoT生産革新により 情報を見える化し 競争力を強化

1946年の創業以来、受注生産型製造業として機械加工や製缶溶接などを行ってきた同社。受注が増加する新たな分野への対応策として、生産管理システムと高精度の機械を導入しました。



Made in JAPAN 2015

生産工程全体のIoT化で 長年の課題を一気に解決できました

多

品種少量特注品の設計から加工、メンテナンスまでを一貫して行う同社。その高い技術力とフレキシブルな対応力で顧客から評価を得てきました。

「これまで機械加工の中心は、化学、繊維、電気、半導体等の分野だったのですが、近年は、自動車と医療分野が増えてきており、今後も成長事業として大いに期待しているところです。」

ただ、生産工程間や設備間の連携がうまくいっていない面があり、効率的な作業ができているとは言えませんでした。そのような状態では、精度・品質・納期を厳しく求められる自動車や医療分野の仕事に対応することはできません」

これまででは管理者が現場を巡回し、経験と勘に基づいて生産工程の管理を行っていたという同社。図面や納期に変更が生じた時には、現場が混乱する事態が頻発していたといいます。

ものづくり補助金活用 ここがポイント



生産管理システムで工場内の 機器をネットワーク接続

工程の進捗状況をリアルタイムで確認できるようになり、併せてプログラムやノウハウの共有も実現。機器の稼働率も飛躍的に向上しました。

「今回導入した生産管理システムによって進捗状況等の情報をデジタル化して共有することで、リアルタイムで工程全体を把握できるようになりました。」

これによって最適な生産計画を作成でき、作業の大幅な時間短縮と効率化を図ることができました。さらに、自分のパソコンで外出先からでも状況を把握できるので、お客様からの問合せにもすぐに対応できます」

新型マシニングセンタを導入することで効率的に高品質な切削加工が可能に。夜間も安定した連続運転が可能になりました。



Case 15 生産用機械器具製造 株式会社 池上鉄工所

〒882-0024 宮崎県延岡市大武町39番地6 TEL 0982-34-3211

